



# あきたUNESCO

2020.9.20

No.60

■ 発行 秋田ユネスコ協会

事務局 〒010-0041 秋田市広面字鍋沼81-17 TEL&FAX018-835-9646  
http://www.unesco.or.jp/akita/



## 会長に就任して思うこと

秋田ユネスコ協会

会長 小林 建一

ユネスコ活動に取り組みはじめてまだ日が浅いの、会長となったことに戸惑いを感じている。これまで私は、ユネスコ活動の原点であるユネスコ憲章前文の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」ということの意味をよく考えずに活動してきたように思う。活動のさいに、この言葉を唱えさえすればよいという、いい加減な気持ちをもつことさえあった。しかし、会の舵取りをまかされた今、これではいけないと思うようになった。

戦争と平和の関係については、簡単に説明しつくすことができない。戦争のない状態が平和であるから、戦争だけは絶対に避けなければいけないとか、戦争は貧困や差別、不平等などが原因で発生するので、それらを根絶しなければ平和を実現することはできないなどといわれるが、いずれもまちがってはいないと思う。しかし、ユネスコ憲章の言葉をかみしめてみると、社会や制度を改良するだけではなく、私たち一

人ひとりが人々の中の争いをなくするために考え行動する力をもつことが大切である。これが、心の中に平和の砦を築くことの意味であると、理解することもできるであろう。

このようなことから考えてみると、これまで秋田ユネスコ協会の活動として行ってきた各種事業については、よくよく検証すると、大なり小なりそのような精神の形成につながる有意義なものであったと評価できる。先輩たちのご努力とご労苦に敬意を表しななければならない。

しかし、いかなる組織活動でもやがてはマンネリ化し、衰退していくことは世の必然である。時代や社会環境の変化を見きわめながら、活動の一つひとつを点検していく必要がある。それらを改善、ないし再構築していくことでまた、組織活動の活路を見いだしていくこともできる。

あまり大胆な変革は禁物であるが、一歩でも前に進みたいと思う。

## CONTENTS

会長に就任して思うこと.....	1
2020年度・通常総会 ユネスコに新しい風を！～役員からひと言～.....	2
持続可能な社会づくりについて考えたユースセミナー リレーエッセイ.....	3
『寺子屋運動』への善意に感謝状 心に平和の砦を築こう News Board.....	4



ユネスコ未来遺産「草木谷を守る会」の  
田植え(6月7日)

# 2020年度・通常総会

総会は当初4月19日に開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため緊急事態宣言が出されたことから、大事をとって延期とした。その後5月14日に宣言が解除されたので、急遽5月17日に遊学舎を会場に総会を開催した。

佐藤会長の開会あいさつに続いて、菅原顧問を議長に議事に入った。2019年度事業、決算報告並びに会計監査報告、2020年度事業、予算について審議し、原案通り可決された。今年度の重点目標は右表の通りである。

次に役員改選について審議、会場から事務局案の提示を求められ、会長に小林建一氏（新任）、副会長に加賀谷ユウ子氏（留任）、藤本恵子氏（新任）、事務局長に三浦生子氏（新任）の就任を求めると、全会一致で承認された。これまで6年間会長を務められた佐藤氏は顧問に就任された。新役員のもと、会員、特に若い会員が増え、会が活性化することを期待して、総会を終えた。

（菅原 展子）

## 2020年度 重点目標

1. 世界寺子屋運動の推進
2. 高校生などのユネスコの活動の推進
3. ユネスコスクールの普及
4. 世界遺産、未来遺産運動の推進
5. 新会員入会の促進
6. 他団体・機関との連携、協力の推進

## 役員

(2020~2021)

顧問	金森秀夫、大井光弘、 菅原展子、佐藤治雄
会長	小林建一
副会長	加賀谷ユウ子、藤本恵子
理事	伊藤久、エヨング宏枝、 大友和子、カピール ムハムドウル 岸部ハマ子、小松弘子、 佐々木春香、新田真由美
事務局長	三浦生子
監査	武藤馨、寺田洋子

### 副会長 加賀谷 ユウ子

副会長に任命されて3年目を迎えました。最初の2年間は与えられたことを何とかこなすだけで過ぎてしまいました。

今年はこのコロナ禍の中、ユネスコの立ち位置を改めて考えると共に、ユネスコだからこそできることは何かを探す一年にしていきたいと思っています。

## ユネスコに 新しい風を!

~役員からひと言~

### 副会長 藤本 恵子

今年度より副会長を拝命し、諸先輩方の業績を思い起こし大変緊張しております。これまでの経験を活かし、新しいことを受入れ、世代を超えたコミュニケーションを大切に活動していきたいと思っております。

至らぬ点多々ありますが、責務を果たせるよう努力します。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 事務局長 三浦 生子

今期より事務局長に任命を受け、また別の角度から見える景色が広がり、より一層ユネスコの活動をしている上での学びが多くなっております。人々が創り上げてきた歴史を学び、文化にふれ理解し、教育を育み合いながら、今自分たちにできることを常に追求し行動に移していきたいと思っております。

# 持続可能な社会づくりについて考えたユースセミナー



8月8日(土)午後2時から4時15分まで、秋田市にぎわい交流館(AU)4階研修室1を会場に開催した。

参加者は16名。新型コロナウイルス感染拡大防止のため3密を避け、検温、消毒等万全の対策をして実施した。

セミナーのテーマは、「高校生の活動発表から考える持続可能な社会づくり—高校生カンボジアスタディツアーから学ぶ—」であった。令和元年度日本ユネスコ協会連盟主催の高校生カンボジアスタディツアーに参加した、本会会員で秋田高校2年の平尾織花さんが「カンボジアスタディツアーに参加して」と題して、パワーポイントを用いて約40分間の発表を行った。

平尾さんは、ユネスコ協会に加入し、スタディツアーに参加するに至った動機や、カンボジアの人びとは生活が貧しくとも心が豊かであること、先進国と途上国とのしあわせのとらえ方の違いに気づいたことなどについて熱く語った。

続いて、本会の藤本副会長がファシリテーターとなり、発表内容をもとにワークショップを行った。

各自が平尾さんの発表から感じたこと、学んだこと等をワークシートに書き、その感想を読んだ人がそれについてメッセージを記述する。そして最後に全員が発表するというものであった。

参加者からは、発表内容や他の生徒の意見・感想を聞いて、自分の考え方がまるっきり変わった、新たな発見ができた、より深く探究することの自覚が芽生えたなど、セミナーに参加して大変勉強になったとの声が多く聞かれた。とくに、幸せや豊かさの基準がその国の人びとによって異なるので、データを読み取るときは、背景や深い意味を探究する姿勢が大切であり、国際協力もそのような視野で考えていく必要があるというふりかえりには、理解の深さを感じた。今回のセミナーは大きな成果があったと評価している。

ユースセミナーは、今後ともユネスコ活動を広げていくうえで大きな意義をもっていると考えられるので、より充実したセミナーにしていきたい。(小林 建一)



## リレーエッセイ

### 憲章前文唱和に感動



会員 加成 義臣

8月15日、千秋公園の「時鐘」で今年も「平和の鐘を鳴らすつどい」が行われました。今年の新機軸は、参加者全員で「ユネスコ憲章」の前文を声高らかに唱和したことでした。秋田ユネスコ協会に加入して25年ほどになりますが、憲章前文の唱和ははじめての経験で、大変新鮮な感動を受けました。

例えば、この前文をはじめ読んでしたのは、高校の政治経済科目の副読本でした。その中で、鮮明に記憶に残っている章句は、言うまでもなく、冒頭の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という部分です。

私は、ここに鮮明にされているユネスコの決意と呼びかけは、敷衍すれば、我が国の憲法前文や9条の精神と根本においてつながるものだと確信しています。改めて、このユネスコ憲章の前文を熟読玩味しようと思っています。

## 『寺子屋運動』への善意に感謝状 書き損じはがきなど回収運動への協力

世界には学校にいけない子どもが約6,400万人、文字の読み書きができない大人（15歳以上の成人）が約7億5,000万人（2019年12月現在）います。

1989年に開始した「ユネスコ世界寺子屋運動」は、基本的人権として、年齢、宗教、性別にかかわらず全ての人々が公平に教育の機会を得られるように、無償で学ぶ機会を応援する活動です。世界各国の貧困地域で「学ぶ場＝寺子屋」を通して人材を育成し、自立した持続可能な社会作りを応援しています。

秋田ユネスコ協会では運動を支えるために書き損じはがき、未使用切手等の回収や募金運動を行っています。

例年、年賀はがきの書き損じの多い1月下旬に募金キャンペーンを行っていますが、アルヴェの市民交流サロン、アトリオンのハーモニープラザ、遊学舎等には、施設のご協力によりはがき回収ボックスを常置して頂いております。

今年、秋田キャッスルホテルが創立50周年の記念事業として「世界寺子屋運動」に賛同され、回収ボックスを設置して下さいました。14万円を超える回収ができ、これに対して日本ユネスコ協会連盟より秋田キャッスルホテルへ感謝状の贈呈がありました。また、アルヴェの市民交流サロンへも、ボックス常置にご協力いただいていることに対して日本ユネスコ協会連盟より感謝状の贈呈がありました。



感謝状とはがき回収ボックス

秋田ユネスコ協会はアフガニスタンの「寺子屋」を支援しており、皆さまからの善意は日本ユネスコ協会連盟を通して、アフガニスタンに届けられました。応援して下さる皆さまに心より感謝いたします。

この31年間にユネスコ世界寺子屋で学んだ人は世界全体で約130万人以上に広がっています。「誰ひとり取り残さない」世の中を実現するためには、まだまだ息の長い活動が必要です。

皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

(小松 弘子)



秋田キャッスルホテルへの  
感謝状贈呈

## 心に平和の砦を築こう

世の中を大きく変えたコロナ感染症の拡大が心配される中、秋田ユネスコ協会は、8月15日の終戦記念日に今年で6回目の「平和の鐘を鳴らすつどい」を開催した。

昨年までは、千秋公園のふもとにある認定こども園を訪れ、こどもたちに絵本の読み聞かせをしたり、外国の方を迎え、簡単なあいさつや自国のことを話してもらうなど、遊びの中に平和について感じてもらえるような機会を持ってから、こどもたちと一緒に千秋公園の鐘に向っていたのだが、今年はユネスコ会員のみが直接「平和の鐘」の元に集合した。

小林会長の「私たちの鳴らす鐘の音は小さいが、社会に大きく響き渡らせていきたい」とのあいさつの後、一同で世界ユネスコ憲章の前文を唱和した。

このコロナ禍の中で、安全に行事が遂行できるために準備の段階からお世話頂いた市役所の職員の方々、又数社の報道関係者の見守りの中で、正午の最初の鐘の音を合図に1分間の黙祷をした。

この時、この日本式の厳かな鐘の音と、市内の遠くから聞こえる黙祷を告げるサイレン、近くの教会からは軽やかなカランカランという鐘の音、それに周囲の樹々で声をかぎりの蝉時雨が一体となって、なんともいえない雰囲気にあふれるなかで、75回目の終戦に思いを馳せ、平和を念じた祈りの時を過ごした。  
(加賀谷ユウ子)



## News Board

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動の自粛が求められ、この団体も活動の中止、あるいは縮小せざるを得ない状況になっています。

日本ユネスコ協会連盟は全国大会、地方大会を中止としました。当協会も恒例の「外国人による日本語スピーチコンテスト」「ユネスコカフェ」を中止することにしました。大学がキャンパス閉鎖中

で、正常な学生生活に戻る見通しがなく、出場者を募集することは難しいと考えたからです。大変残念であり、スピーチコンテストを楽しみにしている方々には申し訳なく思っています。

この他の活動もコロナの感染状況を見ながら実施するか決めていくこととなります。早くコロナが終息し、いろいろな活動を再開できる日を心待ちにしています。

## 書き損じはがき回収にご協力を

書き損じはがき、投函しなかった返信はがきなどを集めています。ご寄付いただいたはがきは、日本ユネスコ協会連盟を通して、アフガニスタンの識字教育、職業訓練に役立てられます。

例年のキャンペーンは実施しませんが、アルヴェの市民交流サロン、アトリオンのハーモニープラザ、遊学舎には回収ボックスを常置し通年で集めております。またいつでも会員にご連絡下さい。ご協力よろしく申し上げます。